

15. 埼玉医科大学医学部（私立） <http://www.saitama-med.ac.jp/index.html> Saitama Medical University · Faculty of Medicine

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38番地

電話049-276-1108

FAX049-295-2784

1. カリキュラム全般について

A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）と専門教育とを区別せず、6年一貫教育である。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみで行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は1年生から開始する。

B. 教授会は一般教育（教養）と専門教育とで常に合同で開催される。

C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）ですべて示してあり、その印刷物をシラバスという。

E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらず、すべて1年生に入学する。 編入生の編入時期はすべて4月である。

F. 1年生の入学時オリエンテーションは3日間合宿して行う。

G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は1、2、3年生である。

その期間と内容：1年生：2日間：ケアハウス・重度心身障害者施設訪問

2年生：6日間：外来初診患者付き添い実習、医師業務見学実習

3年生：8日間：看護業務体験実習

H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されている。コアタイムの時間は

1年生は、平均して週2時間×年間5回である。

2年生は、平均して週2時間×年間4回である。

3年生は、平均して週2時間×年間4回である。

チューターは学年により異なっていて一般教養系、基礎医学系、臨床医学系を問わない。

チューター養成のためのトレーニングプログラムや講習会などが行われている。

I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムをすべてにわたり採用している。

J. 平成17年以降、大幅なカリキュラム改訂は、行われていない。なお、現行カリキュラムの特色は下記のとおりである。

6年一貫。臓器・機能別ご統合講義（1-2年生で基礎、3-4年生で臨床）。

K. 今後のカリキュラム改訂は

平成20年を目途に予定している。そのねらいは下記のとおりである。

症例チュートリアル、およびクリニカルクラークシップの充実

L. 現在学内で、医学教育について検討されている事項は下記の点である。

*PBLチュートリアルから症例チュートリアルへの発展（4年生時に行い、これに向けての1-3年生の再編成）

*1年次の導入の充実

*クリニカル・クラークシップの充実

2. 選択制について

専門教科について選択制を採用してはいない。

3. 一般教育（教養）について

- A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。
一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一緒にではない。
- B. 他大学との単位互換について認めていない。
- D. 一般教育（教養）部門では一部が選択科目で、それは一般教育（教養）の約20%である。
- E. 平成19年新入生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生数は約30%であった。
「生物」を履修しなかった学生に対して補習ないしは選択で授業をしている。
- F. 平成19年新入生にはセンター試験が導入されてはいない。

4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

- A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムはない。

5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

- A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。
（8日間）
身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入している。
- B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）
5年の時、1週6時間で、40週間である。
- C. 臨床実習科目は全科目を必修としている。
- D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）で臨床実習を行ってはいない。
- E. クリニカルクラークシップは一部の臨床実習実施科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標、医行為の範囲、評価法が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として各診療科ごとの評価基準があらかじめ学生に示されている。
学習終了後に基本的臨床能力試験（OSCE）を行っている。
臨床実習の評価結果は合否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。
そして不合格になれば、再び全科の臨床実習を行う。
- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策については
マニュアルが刊行されている。
事前に学習枠を設けて学習している。
保険制度に加入している。
ワクチン接種を行っている。

6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は行っていない。

7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは1年終了時、2年終了時、3年終了時、4年終了時、5年終了時である。
- B. 成績の記録法は点数制を採用している。
- C. 卒業判定のための試験は行われていて、それは総合的な試験である。
時期は10月から12月まで、期間は6週間（長期休暇期間を除く）である。
- D. 6年生の10月以降には、系統講義が組まれている。
また、大学による国家試験対策のための特別な講義が行われることはない。

E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学部長・学長、所属長、自己である。

自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされない。

その評価結果は昇進などに関係しない。

F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われた。

8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

A. 教員数（平成19年12月現在）

		教 養*	基 礎**	臨 床***	附属研究施設	その他	合 計
常勤 (有給専任)	教 授	3	11	122	7	0	143
	准教授	7	9	107	6	0	129
	講 師	3	17	148	8	0	176
	助 教	0	19	520	17	0	556
	その他	0	7	16	11	0	34
	合 計	13	63	913	49	0	1038

非常勤(客員・無給を含む)	教 授	0	6	32	9	0	47
	准教授	0	0	4	2	0	6
	講 師	4	32	367	23	0	426
	助 教	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	合 計	4	38	403	34	0	479

* 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。

** 基礎は社会医学を含む。

*** 臨床は附属病院・分院を含む。

B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れている。

任期制の制度の概要は下記のとおりである。

任期は5年 通常の業務成績であれば原則再任 不服があれば〇×委員会に申し出ることができる
--

C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていて、何らかの保険制度に、全員が加入している。

9. 学生数（平成19年12月現在）

学 年	総 数		うち学士編入者数	うち今年度留年者数 (今年度のみ)	うち休学者数	うち外国人 留学生	
	うち 女子 人数	うち 女子 人数					
1	117	38	0	10	0	0	0
2	102	41	0	4	0	0	0
3	98	38	0	3	0	0	0
4	110	46	0	2	1	0	0
5	102	40	0	0	0	0	0
6	107	47	0	10	2	0	0
合計	636	250	0	29	3	0	0

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数3,427名、合格者数107名、倍率32倍
 入学者数107名、（定員100名、うち推薦入学者数16名）
 入学者の状況：現役29名、1浪34名、2浪33名、その他*11名、
 定員外に別試験で入学した外国人学生0名、
 センター試験を導入していない

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数2,319名、合格者数106名、倍率22倍
 入学者数104名、（定員100名、うち推薦入学者数17名）
 入学者の状況：現役32名、1浪31名、2浪19名、その他*22名、
 定員外に別試験で入学した外国人学生0名、
 センター試験を導入していない

13. 平成18年（昨年）の1年生以外の編入学状況

B. 編入学者地域わくについて

地域わくは無い。

今後どのように考えていますか。

学士の編入学制度はなく、今後も導入予定なし。

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

学 年	学期制なし	学期制あり		総時間数		
		2学期制	3学期制	講義	実習	PBL/ チュートリアル
1			○	598	67	31
2			○	467	198	22
3			○	605	32	23
4			○	625	90	0
5			○	0	1369	0
6			○	460	0	0

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は5年はある（アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。）

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A		E1		E2	G
B		C	D		
		F			

（註） A：教養（一般教育、基礎教育）

B：基礎医学（解剖、生理、生化など）

C：基礎医学（病理、薬理、微生物など）

D：社会医学（公衆衛生、法医など）

E：臨床医学（E1臨床医学、E2（臨床実習、共通プログラム、CPCなど））

F：臨床入門、医学セミナー、早期体験学習、PBL

G：総合学習（卒業試験含む）

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
細胞生物学 1-1	50		50
細胞生物学 1-2	35		35
細胞生物学 1-3	45		45
細胞生物学 2	25		25
人体の科学入門	30		30
自然科学の基礎	10		10
人体の構造と機能 1-1	40		40
人体の構造と機能 1-2	41		41
人体の構造と機能 1-3	14		14
人体の構造と機能 2（総論）	45		45
〃（皮膚・運動器）	10		10
〃（内分泌）	20		20
〃（循環器）	20		20
〃（呼吸器）	15		15
〃（腎・泌尿器）	15		15
〃（消化器）	25		25
〃（生殖器）	15		15
〃（血液）	15		15
〃（遺伝）	7		7
〃（感覚器）	25		25
〃（神経（脳実習含む））	45		45
〃（構造系実習）		80	80
〃（機能系実習）		80	80
医学の数学 1	12		12
医学の数学 2	12		12
医学の数学 3	16		16
医学の物理学 1	7		7
医学の物理学 2	11		11
医学の物理学 3	11		11
医学の化学 1	8		8
医学の化学 2	11		11
医学の化学 3	10		10
基礎科学実験 1		19	19
基礎科学実験 2		19	19
英語 1	42		42
英語 2	45		45
英語 3	43		43
医学概論	85		85
医学セミナー	15		15
臨床入門・問題基盤型学習		265	265
医学英語	75		75
選択必修	120		120
病理総論	40		40
薬理総論	30		30
感染	75		75
免疫	50		50
疫学	15		15
ヒトの病気（診療の基本）	60		60
〃（呼吸器）	60		60
〃（循環器）	70		70
〃（消化器）	90		90
〃（血液）	45		45
〃（腎・泌尿器）	50		50
〃（生殖器）	40		40
〃（症候の鑑別）	60		60
〃（救急・中毒）	55		55

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
ヒトの病気（神経）	70		70
◇（感覚器）	55		55
◇（感染）	25		25
◇（皮膚・運動器）	60		60
◇（内分泌・代謝）	50		50
◇（免疫）	35		35
◇（周産期・発達）	45		45
◇（精神）	35		35
疾病の予防と対策	50		50
環境・食品・職業と健康	35		35
異常死の診断	25		25
臨床実習（BSL）5年生		1369	1369
総合学習（6年生）	460		460
合 計	2755	1832	4587

各学年における講義時間数、実習時間数について

	講義時間数	実習時間数	合計時間数
1 学年	598	98	696
2 学年	467	220	687
3 学年	605	55	660
4 学年	625	90	715
5 学年	0	1369	1369
6 学年	460	0	460
合 計	2755	1832	4587

16. その他の教育内容

独立した科目として授業が行われている科目：

医学外国語（必修）、医療安全（必修）、医の倫理（必修）、緩和ケア（必修）、臨床医学（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

医史学、人類遺伝学（臨床遺伝学）、医用（電子）工学、行動科学、医療福祉学（医療社会福祉学）、医療経済、医療情報学、高齢医学、在宅ケア・介護、プライマリ・ケア、家庭医学、人間関係学、医療保険

18. MD-PhDコースを設置していない。